

地域統括組織の役割と効果 —日系多国籍企業の地域統括会社に関する実証研究—

潘 弁

本研究は、地域統括組織は多国籍企業の業績向上に寄与するのか、またどのように寄与するのか、という問いを解き明かすことを目的とする。

従来の多国籍企業論では、グローバル戦略の有効性を前提に、世界規模での競争優位を実現できるような組織のあり方をめぐって議論がされてきた。しかし、経済のグローバル化は予想通りに進展されず、グローバル戦略という視点の合理性に疑問が呈されるようになった。多国籍企業には地域的な本質があり、むしろ地域戦略こそが多国籍企業が追求すべき戦略であると提唱されるようになった。地域戦略の重要性が強調される中、多国籍企業にとって、いかに地域戦略を遂行していくのが課題になった。地域単位で戦略を展開し、活動をマネジメントするために、地域統括会社が多く の 多国籍企業に設置されている。しかし、地域統括会社の設置は本当に効果があるのか、どのように効果を果たしているのか、という問題の検討が見落とされている。本研究はこの問題について、探求してきた。

本研究は、この問いを考える際に、二つの問題に分けて分析をしてきた。まずは、地域統括会社は効果があるのか、その効果は何によって規定されるのか、という問題に対して、地域統括会社を取り巻く環境—地域統合度と、地域統括会社のダイナミックな本質—時間的要素、二つ視点から地域統括会社の設置効果とその規定要因を議論してきた(第三章、第四章)。次に、地域統括会社はどのように役割を果たして、多国籍企業の業績向上にどのように寄与するのか、という問題に対して、地域内子会社の組織能力と地域の外部環境との関係性に焦点をおいて、地域統括会社の機能・役割の変化メカニズムを分析してきた(第五章)。

第三章と第四章では、地域統括会社の効果を、日系企業による地域統括会社の設置と当該地域内子会社の経済的パフォーマンスの関係性から、定量的検証を行なった。第三章では、地域統括会社は地域内子会社の成長性に効果があり、特に地域戦略が重要となる環境下ではRHQの効果が顕現であることが実証された。

第四章では、第三章の結果を踏まえて、地域統括会社のダイナミックな本質にフォーカスして分析し、地域統括会社が地域内子会社の成長性に与える効果は、設置されてから経過した時間によって減衰していく傾向が確認された。特に、設置効果が時間とともに減衰する傾向は、EUのような経済連合地域では顕著であることが明らかになった。

第五章では、長期間にわたる地域統括会社の活動を継時的に検討することで、地域統括会社が果たす役割・機能が子会社能力の変化と地域環境の変化とにいかに関与しあっているか、変化していくことを明らかにした。

最終章では、以上の実証分析の結果をまとめた上で、その結論と意味を論じた。最後に本研究の理論的貢献と実務的インプリケーションを議論し、今後の研究課題を提示した。